

ベトナムから夢を…

中田加奈恵（岡山市立石井中学校） 担当教科／保健体育・学活・道徳・総合

実践教科／学活・道徳・総合・保健体育 対象学年／中学1年生・2年生 対象人数／268名

実践の目的

- ・ベトナムの生活や文化を知ることで日本とは違う文化を尊重する気持ちを持たせる。
- ・ベトナム戦争を知ることで、世界の平和のために行動しようとする意志を引き出す。
- ・ベトナムで活躍する日本人及び青年海外協力隊員の活動を通して、国際貢献に対する理解を深め、自分の夢を考えるきっかけにする。

授業の構成

第1学年

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 ・ 2	・ベトナムの学校の子ども達にプレゼントを贈ろう（学活・学級）	・ベトナムについて知る ・ベトナムの子ども達に贈るプレゼントを考え、日本の12ヶ月カレンダーを作る	・型紙 ・折り紙 ・はさみ・マジック ・リボン
3 ・ 4	・ベトナム戦争について考える（道徳・学級）	・ベトナム戦争資料館での写真（スライド）を見ながらベトナム戦争の歴史を学ぶとともに、世界平和について考える	・ベトナム戦争資料館の写真 ・デジカメ ・TV
5 ・ 6	・ベトナムの生活や文化を知るとともに、ベトナムで働く日本人の仕事に触れ、将来の夢について考える（総合・学年）	・パワーポイントを使い、ベトナムの生活や文化を知る ・JICA、青年海外協力隊とシニアボランティアについて知る ・自分の将来の夢について考える	・パワーポイント ・パソコン ・ノンラー傘 ・夢を書くプリント
7	・ベトナムスポーツを体験しよう（体育・学年）	・サッカーのリフティング練習としてダッカウ*を体験する	・ダッカウの羽 ・中国の蹴毛羽

第2学年

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	・ベトナムの下水処理について知る（保健・学年）	・日本の下水処理能力について学ぶとともに、ベトナムの水事情とベトナム初の下水処理場について知る	・パンフレット ・写真
2	・ベトナムスポーツを体験しよう（体育・学年）	・サッカーの導入に使ってダッカウ体験する	・ダッカウの羽 ・中国の蹴毛羽

*ダ・カウ (dá cát) とは、サッカーのリフティングや日本古来の蹴鞠などのように、ボール(はね)を蹴飛ばして遊ぶもの。

授業の詳細

第1学年 1・2限目 ベトナムの学校の子ども達にプレゼントを贈ろう

夏休みにベトナム研修に参加することを伝え、ベトナムについて知っていることを話し合った。ベトナムがどこにあるかさえなかなか分からなかったクラスの子ども達だが、世界の国に目を向ける良い機会になった。

ベトナムの学校に何をプレゼントするかをクラスで考え、12ヶ月の壁かけカレンダーを班ごとに作成することにした。折り紙や切り紙でそれぞれの月の日本の季節感を出し、行事や慣習を表現した。子ども達はベトナムの子ども達のことを思いながら楽しそうに作成した。



モー村の学校に送った12ヶ月カレンダーをとても喜んでくれました。

子ども達の感想

- ・ベトナムに自分たちの作ったカレンダーが行くと思うとわくわくする。
- ・ベトナムの学校はどんなのか分からぬけど、日本の12ヶ月のカレンダーを見て、日本のこと を少しでも知ってくれるとうれしい…。
- ・ベトナムの学校の人たちが自分たちの贈ったカレンダーを持って写っていた写真を見て、すぐ嬉しくなった。
- ・遠いベトナムのそれも、自分たちが行けない遠い村の人たちのところに、プレゼントが贈られて不思議な気持ちになった。

所 感

7月の総合の時間を使って行ったが、世界に目を向け、クラスで団結して一つのことに取り組む良い機会となった。また、この後9月に行われた文化祭の展示、「世界遺産」に向けての良い動機づけになったようである。生徒の中には、ベトナムの子ども達への興味・関心が高まっていた。社会の授業で東南アジアについて勉強しているときだったので、ベトナムがより身近に感じられたようである。本校にはフィリピン出身の生徒も在籍しているため、友達のことや東南アジアのことに触れる良い機会となった。

第1学年 3・4限目 ベトナム戦争について考える

10月から11月の、岡山空襲戦跡巡りに向けて、岡山空襲について学んでいった。この学習をする中で、ユニセフ親善大使の黒柳徹子さんの体験記「トットちゃんとトットちゃん達」に描かれている戦争・内戦の悲惨さをあげ、子ども達になぜ戦争が起きるのか考えさせていた。また、太平洋戦争以外にもさまざまな戦争についてふれ、今回はベトナム戦争について取り上げ話をす

ることにした。これは、私が今回の研修で子ども達に伝えたかつ事のひとつであり、ベトナム戦争資料館で見た衝撃的な写真をもとに、枯れ葉剤の影響を含め戦争がもたらす被害、今もなお続く悲しみ・苦しみについて話をした。

授業を終えて、戦争のない世の中にするために「平和の誓い」を考えた。

【生徒の平和に対する思い】

- ・相手を思いやり、大切にしていくことが平和だと思います。人権などにこだわらず、世界中の人々と仲良くしていけたらいいと思います。
- ・平和な世界で育った私たちができることなんて限られています。でもせいたくを言わず、しっかり生きて行く…。今はこれしかないと思います。
- ・戦争はいけん!!だってすべてが消えて無くなるから。相手がやったから自分もやり返すとかそういう小さい事が戦争の始まりだと思う。両方を思いやることで平和が生まれると思う。だから両方がいいように進むように考えて行動していくことが大切だと思う。
- ・となりや近くにいる人々を大切に思い、何事もなく生活できることを幸せだと感じられるようにします。そして、おたがいに支え合い手をとりあって生きて行くことをこれから何年たっても変わらず思っていけるように生きて行きたいです。
- ・おきてしまったさまざま戦争の重大さを2度と起こさないように、しっかりと命の大切さを心にきざみ込むことが大事だと思う。
- ・今まで、昔の日本と外国はお互いとてもひどいことをしてしまった。でもお互いを憎みあうのではなく協力して、助け合い世界中を平和にしていきたい。
- ・戦争を起こさないためには、まずはまわりの近くの人を思いやることが大切だと思う。

所 感

日本の昔に起きた戦争だけでなく、今まだある世界紛争及び今もなお被害が続くベトナム戦争に触れることで子ども達は戦争を身近に感じたようである。

枯れ葉剤の驚異的な恐ろしさ、それが及ぼす影響や悲惨さを写真を通して感じ、戦争は二度と起こしてはならないものであることを生徒はより深く感じていたようである。

また、今起こっている日本の震災による放射能・原爆の恐ろしさについても生徒達は考えるようになった。

学年対象にパワーポイントを使ってベトナムの所在地・平均寿命・生活事情・他民族国家・交通事情・食生活・教育・文化に触れ、日本との違いについて考えてみた。

また、ベトナムで働く日本人をテーマに、いろんな職種の方が海外で働いていること、JICAの活動、青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアについても触れ、国際貢献をしている隊員の姿や動機に触れ、将来の夢を膨らませてみた。

最後に、学校のすべての先生方の中学校時代の夢を紹介し、6限目は今自分の持っている夢について考える機会とした



オートバイの渋滞・交通事情にびっくりです。



村落開発普及員のT隊員。

日本では銀行員として海外融資担当業務をしていますが、青年海外協力隊員として農村での支援をしています。



作業療法士をしているG隊員。小学生の時にJICA青年海外協力隊員の話を聞いて、夢を叶え、派遣されました。



とても美味であるベトナム料理の紹介をしました。



日本を愛してくれるベトナムの学生さん。
日本の学生はベトナムのことをどれくらい知っているだろうか。私たちも他文化を理解し好意を持って学ぶことが必要である。



フランス領土であったベトナム…。
社会の先生に歴史的背景を説明してもらいながら、なぜフランスパンが売られているのかを学びました。



「ノンラー」をかぶって、子ども達にベトナムについていろいろな質問をしながら、パワーポイントを使いながら授業をしました。生徒達はとても興味深く写真を見ていました。社会の先生に建国の歴史的背景も説明していただきました。



日本とベトナムの教育の違いを学びました。お昼寝制度のあるベトナム。中国も同じようにお昼寝制度があるということ、「私たちもお昼寝したい…」そんな生徒の声も上がりました。



学校で働く私たちにも、中学時代はまたがった夢・希望がありました。スライドショーの後には生徒達から拍手が起きました。



職員全員の中学生時代の夢をスライドショーにして流してみました。



ALTの中学生時代の夢は「犬の調教師」でした。
みんなの夢はなんだろう！考えて見よう！

所 感

生徒達は、とても素直に授業を受け、ベトナムと日本の違いや文化の違いを感じることができたように思われる。また、世界で活躍する日本人に興味・関心を抱くとともに、将来の自分の夢に想いを重ねて見ることができたようである。生徒達が国際協力・国際理解に興味を持ち、将来国際貢献を抱くきっかけになってくれればと強く思った。

また、3学期は職業調べをしていくので、日本だけでなく、世界に向けて活躍できる仕事も視野に入れながら、調べ学習していってほしいと願っている。

ベトナムの学校教育において、情操教育をあまり実施していないことには驚いた。

特にベトナムの学校を視察した際の体育の授業では、我々が考える体育授業はしておらず、普段着を着たままの簡単なダンスをしていた。しかし、健康に関心を持っている高齢者は朝から公園でダンス・体操などのさまざまな運動をしており、健康に気を使っているように思えた。このようなベトナムの体育授業の現状を子ども達に教え、日本の情操教育のすばらしさについて伝えた。

また、ベトナムのスポーツである「ダッカウ」と中国の「蹴毛羽」をサッカーの授業の導入としてリフティング練習として使ってみた。中国文化からベトナムに入ったダッカウだが、中国羽よりやや小さいものである。

女子は連続10回キック、男子は連続20回キックを目標に練習でしたが、どの生徒も楽しそうに練習をしていた。



早朝、バドミントン・ダッカウ・体操を楽しむ年配の方たち



曲にあわせてダンスをする方たち…
先生を呼んで学ぶこともあるそうだ。

生徒の感想

- ・ダッカウを初めてやってみたが、なかなか難しかった。中国の羽の方が少し簡単だった。友達といっしょに続けるように頑張った。楽しかった。
- ・日本にはないものだなと思ったが、サッカーの練習になるので面白かった。
- ・世界にはいろんなスポーツがあるんだなと思った。

所 感

日本の体育授業の質の高さに自信と誇りを持った。そしてそれを子ども達にも伝えた。ベトナムも中国も情操教育に関しては、あまり必要とされておらず、これから開発途上国にとって、必要とされてくるのではないかと思う。サッカーという競技一つでも、ベトナムではあまり知られていないこともあり、現在、海外から指導者なども入って来ているという。ベトナムの子どもたちがこれからもっと様々なスポーツに関われるような教育になればいいと思った。

2年生の保健の授業では下水処理の授業を行う。

日本の今の下水処理能力について学ぶとともに、ベトナムに初めてできた下水処理場は、日本の円借款・技術投資によりできた施設である。

また、ベトナムだけでなく、以前住んでいた中国での下水処理・水問題・ゴミ問題などについても触れてみた。日本よりもやや遅れているベトナムや中国を知るとともに、日本のODAが大きな開発の援助力となっていることも伝える。



第1下水処理場に引き続き、第2処理場を建設中。



日本の技術投資が、ベトナムの下水処理場を支えている。



ゴミ処理についても大きな課題が…。



街にある仮設トイレ…。

所 感

衛生的な日本の処理能力に比べ、開発途上国の事情も知り、国の違いをここでも感じた生徒たちであった。開発途上国に今何が必要か、今までの日本、これからの中学校についても考えるよい機会となった。

全体を通しての成果と課題

今回の教師海外研修は自分にとって、とても有意義な研修になったと思う。

特に、JICAの活動、そこで働く人々、青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアの方々の国際貢献に対する熱い思いや活動を実際この目で見聞きできたことは私の若い頃からの夢でもあり、これからの自分の将来の生き方に影響を及ぼすこととなるだろう。

また、今回ベトナムを通して、開発途上国や世界の諸問題などについて少しでも多くの生徒達や同僚達に伝え、関心を持ってもらうきっかけにしたいと思い、中学校では限られた時間ではあるが、総合や道徳の時間を使って授業を行ってみた。

同じアジアでありながら、ベトナムについてあまり何も知らなかった生徒達にとって、今回の授業は刺激的で興味あふれる授業になったと感じている。通常の教育活動の中では、身近に考えることのないベトナムを通して、将来国際協力や国際理解について考えるとともに、ボランティア意識を持って活動できる人材の育成になればという強い思いで授業を行った。現に、授業を終

えて「人の役に立つ仕事につきたい」と答えた生徒が多かったことは、成果としていえるであろう。

国際理解教育は、主に英語教育で行う事が多い我が校であるが、今後の課題として総合や学活、道徳の授業などで身近に取り上げていきたいと思っている。

最今、中国や韓国などの国とのさまざまな摩擦問題から、生徒は、スーパーなどで見かける外国の方、留学生の方に対しても偏見や差別意識も多少持っているようだ。同じアジアにいながら、一部の情報にとらわれ、間違った関わり方をしないよう、これからも歴史的背景も教えながら、これから日本を支える若者に成長していけるよう、また、世界平和に繋がる人と人とのつながりについてしっかり学ばせていきたいと思っている。

また、今あたりまえとしてある日本の幸せについて、日々、しっかり考え、物を大切にする心、食を大切にする心、人も自分も大切にする心をこれからも常に気づかせていきたいと思っている。

参考資料

【書籍】

教科書 中学校保健体育「生活にともなう廃棄物の衛生的管理」

黒柳徹子著「とっとちゃんととととちゃんたち」講談社

日本国際飢餓対策機構編「世界と地球の困った現実」

地球市民村「私にできることはなんだろう」

【写真資料】

現地で撮影した写真

【インターネット】

「JICA HP」 www.jica.go.jp

日本ユニセフ協会 <http://www.unicef.or.jp/>